



「スポーツ②」

活用案

下松市立下松小学校 教諭 浅村 芳枝

活動名 新しいスポーツを完成させよう

1. 番組活用のねらい

前時まで、体格や体力の差があっても低学年から高学年まで全員が楽しむことができる新しいスポーツについて考えてきた。本時では番組視聴を通して、考えたスポーツをより楽しいものにするための見通しをもたせるとともに、道具作りへの動機づけをしたい。また、本時においても他者のことや体や物の動きなど様々な要素について考えをめぐらすことへの気づきを促したい。

2. 展開例（7時間目／15時間）

	子供の活動や発言例	教師の支援や留意点
導入 ↓ 5分 ↓	<p>○ルールに工夫でうまくいったこと、うまくいかなかったことについて考える。</p> <p>C: 低学年には有利になったけれど、高学年は不満かもしれないな。</p> <p>C: まだみんなが楽しめるとは言えないな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(デジタル版)を配布する。 ・自分達で考えた新しいスポーツについての課題を明確にすることで、今後の活動に必要なヒントを得るとい番組視聴の視点をもつことができるようにする。
番組視聴 ↓ 10分 ↓	<p>○「スポーツ②」を視聴する。</p> <p>C: 思い通りにできないことで差がせばまり、しかも楽しいことがポイントなんだな。</p> <p>C: ふぐころがしは、思う方向に飛ばないボールをつくったことで、力の強さが関係なくなっていたな。</p> <p>C: うまくいなくても楽しめるスポーツだったね。</p> <p>C: 地域の名産をスポーツの道具に取り入れていたのがおもしろいね。私たちの地域の特産物は何だろう。</p> <p>C: 自分たちも道具を作ってみてはどうだろう？</p> <p>C: 道具以外の工夫もできそうだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要だと思うことはメモするよう指示して視聴させる。 ・児童が番組を見て感じたことを聞きながら、板書上で整理する。 ・視聴後、新しいスポーツを考える際に大切なこと(「差を狭める」「うまくいなくても楽しめる」等)を確認する。 ・番組の感想を出し合う中で、より楽しめるスポーツにするために自分たちも道具を作りたいという子どもたちの思いを高めたい。
グループ ↓ 10分 ↓	<p>○ワークシート②に取り組む。</p> <p>T: 縦割り班(異学年間)で行うスポーツ大会では、ルール以外にどんな道具の工夫をするとよいか。</p> <p>C: 差を狭めるためにどうしたらいい？</p> <p>C: 楽しくするにはどうしたらいい？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える時間を取ってからグループでの話し合いに入るようにする。
全体 ↓ 15分 ↓	<p>○ワークシート②に書いたことをもとに、全体で交流する。</p> <p>C: ○班のアイデアはおもしろいけれど、実現させるのが難しそう。やれるといいな。</p> <p>C: ○班のアイデアと○班のアイデアを合わせてみたらどうかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共有ツール(Jambord、ロイロノートなど)を使い、全員の意見を共有する。 ・記述したことをもとに、理由と共に自分のアイデアを伝え合う時間を取る。このとき、差を狭めることが可能か、うまくいなくても楽しめそうかという点を意識して聞くよう声掛けをする。 ・時間内に結論を出すことができなくてもいいので、しっかりお互いの考えを出し合うことができるようにする。
ふりかえり ↓ 5分 ↓	<p>○みんなで出し合ったスポーツのアイデアをどのようにして実現させていくか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなから出たアイデアを実現させるために次時から活動していくことを伝え、学習の見通しを持たせる。

3. 準備する物

- ・タブレット端末(1人1台)
- ・ワークシート(デジタル版)

4. 活動にあたって(この授業に望むこと)

本時まで、縦割り班遊び(異学年間交流)で行うスポーツの種類やルールの工夫を考えてきた。しかし、番組視聴を通して、ルール以外にも道具などの工夫をすることで全員がより楽しむことができることに気付かせるとともに、自分たちも道具を作りたいという子どもたちの思いを高めるようにしたい。全体での意見交流では、実現したときの様子をイメージしながらアイデアを伝えたり、聞き合ったりするようにしたい。